

【会員だより】

出石 弘伸 (57 回生)

「オープンキャンパスでほんまものの技師さんに触れ合おう。」との趣旨より大野教授から学友会に協力要請が来たように聞いています。第一回は学友会会長の「住友病院」(大阪)、副会長の「天理よろづ相談所病院」(奈良)が2年前の2019年に担当しました。

第一回終了後、学友会理事会にて西谷先生の発言で「京都の大学なんやから京都の病院がしなくては」となり、今回は「京都桂病院」と「京都第二赤十字病院」が担当し、7月17日(土)と8月21日(土)は京都桂病院、8月8日(日)は京都第二赤十字病院が行うことになりました。

本年度はコロナ禍の中での開催。初めての試みの多いオープンキャンパスに参加となりました。窓口は赤澤先生で、テーマ(高校生に放射線技師の仕事のイメージを持たせる)のもと準備を始めました。

大学からの依頼は以下のようでした。

ミッション1. 学友会代表としてのプレゼンとポータブル撮影のデモ

オープンキャンパスの学長挨拶の後、診療放射線技師の業務紹介(5分)

ポータブル装置を用いて病棟での撮影デモを行う(10分)

ミッション2. キャンパスツアーでの装置紹介

一般撮影&CT見学チームとマンモ検査&MRI見学チームそれぞれがポスターによる説明とポジショニングデモを行う(12分)。MRIは検査室内に入ることが難しいため、大型モニターによる説明。

京都桂病院チームは、総勢8名の技師が休みを工面し、担当することとしました。役割分担を決めて、7月12日の月曜の勤務後リハーサルを行い、皆の意見を出し合い、最終チェックをして当日を迎えました。

当日、7月17日の10:00に学友会によるプレゼンテーションが遠藤学長の挨拶に続き、始まりました。樋口大槻君(大3回生)が壇上に上がり「放射線技師の仕事」をスライドにて紹介、続いて「ポータブル検査が果たす役割、適応など」を大沼稜君(大10回生)がスライドにて紹介。2人でポータブル撮影のデモンストレーションを、学生を患者に見立てて行いました。巧く演じたようで学長からも「若い2人が上手に頑張っていたよ」とお褒めの言葉も頂きました。

ミッション1が終わり、キャンパスツアーとなりました。「COVID-19肺炎の検査」として出石弘伸(57回生)が胸部撮影を中心に話し、CT検査の内容を芝本昂平君(大3回生)、泉本涼介君(大8回生)に説明して貰いました。親御さんを含む10名までのグループが数回にわたって来られ、この説明を繰り返しました。「乳がん検査」も同様にマンモ検査を深松(寺田)奈央君(大8回生)が、MRIは池和秀君(65回生)と高槻病院の岩本大成君(大6回生)に説明してもらいました。この日のオープンキャンパスは密を避けるためプログラムを3回実施、キャンパスツアーは6回の説明となりました。1回の装置説明は6分程。案内係が1分前になるとボードで示してくれるので、スムーズに進行できたと考えています。高校生達はあまり積極的ではなく、質問等はほとんどありませんでした。何事もコロナの影響、初めてのことばかりで少々疲れしました。

終わった後、皆で学友会の事務室に集まり「せっかく終わったので一杯やりたいなあ」「次回のオープンキャンパス終了後は飲みに行けたらええなあ」と言いつつ大学を後にしました。





以上

* 通巻 241 号 2021 年 10 月 10 日発行(2021-No.3)より